

西村 和子 選

霊柩にわれらの好むものばかり

白井市 毘舎利道弘

△評▽お盆に先祖の霊を迎えるためのお供え物を、改めて見た発見。ありがちなことだが、おかしきもあって親しみを覚える。
背くらべ入道雲に三兄弟

横浜市 吉野 暢

△評▽ぐんぐん育つ夏雲を見てみると、名前をつけて呼びかけたくなる。夏休みの絵日記のよう。
月見草落陽すでに力なし

加古川市 中村 立身

闇揺らし肩組むやうにねぶた来る

北本市 萩原 行博

片言の時はつかの間庭花火

小田原市 林 梢

昼深くあえかにつるむ糸蜻蛉

嘉麻市 堺 成美

あるものです夕餉や秋簾

秦野市 安藤 泰彦

ほうせんくわつぶやくつにはなごぼす

横浜市 鈴木 貞雄

十葉の干されしままの空き家かな

米子市 永田富基子

瀬の音に声吞まれゆく貴船川床

神戸市 田中 忠士

井上 康明 選

月明に晒すてのひら風の盆

富士市 後藤 秋臣

△評▽富山市八尾町のおわら風の盆は9月1日から3日間。踊り手は夜半にかけ月下に踊る。そのてのひらに豊穣への祈りが籠もる。
灼かれぬ鉄鎖に縋り剣岳

川越市 益子さとし

△評▽剣岳は厳しくそびえる岩峰。「縋り」の一語から、やけた鎖の手触りと登山の険しさが伝わる。生きてゐる証の汗を拭ふかな

八街市 山本 淑夫

秋暑し活字大きなスポーツ紙

相模原市 はやし 央

梅雨晴れの葬儀のあとの光あり

久留米市 持地 恒美

どの子にもちひさきなやみ夏休み

高松市 島田 章平

浜村や海の家からビーチーズ

上尾市 山口 流離

海境に浮き雲白き半夏生

唐津市 梶山 守

炎天や遊女の墓へ案内の子

藤沢市 青木 敏行

露草のその藍色の意味問はむ

鹿嶋市 津田 正義

片山由美子 選

昼寝覚次第に戻る五感かな

加古川市 中村 立身

△評▽目は開けたものの、最初は他人の体のような気が。そこから音が聞こえ、手足に感覚が戻り、少しずつわが身らしくなる。
郭公や喉ひろげ飲む山の水

東京 徳原 伸吉

△評▽山中の冷たい湧き水の心地よさ。中七に実感がある。カッコーの声がいかに涼しげだ。
冷房の唸りを上げる電車かな

矢板市 福田 常

すぐ伸びる子にワンピース夏休み

小田原市 林 梢

香水は会議の席の一人より

鹿児島市 平川 玲子

通らねば道なくなる草いきれ

和歌山市 曾根 澄子

うつむけば泡も言葉やソーダ水

伊勢市 奥田 豊

土用干祖母の遺品の袖かな

出雲市 石原 清司

ガレ風のランプ出窓に夜の秋

東久留米市 矢作 輝

風鈴の音色ほどよき軒端かな

高知 渡辺 哲也

小川 軽舟 選

朝顔や五右衛門風呂の板を干す

香川 川本 一葉

△評▽俳句は民族の記憶のアーカイブでもある。失われゆく光景が、朝顔の取り合わせでいきいきと描かれている。
涼しさや人形館に妻を置く

加古川市 石村 まい

△評▽妻と生き写しのろう人形を置いたのだと読んでみた。鳥肌の立ちそうな涼しさだ。
白雨去り一村露に包まるる

兵庫 小林 恕水

絵日傘や女の頬に蝶の影

大津市 星野 暁

風鈴や湖見ゆる通し庭

府中市 天地わたる

裾分の器を返す夕立晴

白杵市 村上 玲子

外野手を越ゆる白球夏の果

野田市 押江 成行

サハラの砂詰めし小壘や夏の月

高崎市 小林あつ子

友の骨納めて仰ぐ夏の山

岸和田市 板原 和子

夏の朝飛行場への橋光る

北九州市 田中 裕子

アプリで 推し短歌

アプリ「57577」の投稿からユーザー人気をふまえて歌人の天野慶さんが選歌と評を担当します。アプリは右のQRコードまたは<https://tanka.one/>からダウンロードできます。



短歌 アプリ



お題「光」

・泣きながら眠る人もいるでしょう月の光りを弱にしておく

「月の光り」を、冷房の「おやすみモード」のように「弱」にする。ボタンを押しているその人は、いったい誰なのでしょう？ 涙を見逃さない優しい気持ちを持った、大きな大きな、包み込んでくれるような「誰か」の存在を感じられたら、どんな夜もよく眠れそうです。
・星あかり何十年後に届くよう親の思いは未来で届け

「夏の大三角」のアルタイル（彦星）の距離は、17光年。ベガ（織姫）は25光年。いつも温かく照らしてくれた親の思いに気が付くのは、そのくらいの頃でしょうか。どうか、デネブの1424年後の未来で、子孫が気が付く、なんてことにはなりませんように……。
・スマホでもないのに君の指先が触れたら光っちゃうのやめたい

Umii
カバンの中で、ふいに画面が反応して光ってしまふ。そんなに敏感でなくてもいいのに、と面倒な気持ちになることも（特に電池残量の少ないとき）。残量を気にしない「思い」なら、もっとすくまぶしく、もっと触れたいくなるくらい、魅力的に光ってもいいのです、きっと。
※次回の題「赤」（10月6日掲載）